

+



全国から1700人が参加して開幕した全国知的障害福祉関係職員研究大会
山口大会=14日、山口市

全国知的障害福祉関係職員研究大会 山口大会に1700人、開幕

全国知的障害福祉関係職員研究大会山口大会が14日、山口市中央の市民会館で始まった。全国から福祉関係職員ら約1700人が参加し16日まで同市内で開かれる。

あすまで分科会や講演

「夢や希望をかなえあえる未来へ」をテーマに、県知的障害者福祉協会（古川英希会長）や日本知的障害者福祉協会（井上博会長）などが主催。全国持ち回りで開かれており、県内での開催は45年ぶり2回目。

井上会長はあいさつで、神奈川県知的障害者福祉施設で2016年に起きた殺傷事件や中央省庁の障害者雇用増し問題などに触れ、「障害の真の姿が理解されず、偏見や誤解が社会にあることを認識しなければならぬ。ソーシャルワ

ークの理念に基づいた実践を共に確認し、実行したい」と述べた。

福祉関係施設に20年以上勤務し、福祉の推進に貢献した全国の588人を表彰。東大先端科学技術研究センター人間支援工学分野教授の中呂賢龍氏が基調講演した。

15日は県総合保健会館など5施設で分科会、16日は市民会館でドキュメンタリー映画の上映や講師の神田織音さんによる成年後見制度をテーマにした講演がある。

+

+